

就労移行支援事業所における取組

社会福祉法人あげお福祉会
大久保 圭子



就労支援施策の対象となる障害者数

障害者総数約1,160万人^(※1)中、18歳～64歳の在宅者数約480万人^(※2)

(内訳:身体436.0万人、知的109.4万人、精神614.8万人)

(内訳:身体101.3万人、知的58.0万人、精神320.7万人)

※1 身体障害者数及び知的障害者数は、生活のしづらさなどに関する調査及び社会福祉施設等調査等による身体障害者手帳及び療育手帳の所持者数等を元に算出した推計値、精神障害者数は、患者調査を元に算出した推計値。このほか、就労支援施策については、難病患者等が対象になる。

※2 身体障害者数及び知的障害者数については18歳～65歳未満、精神障害者数については20歳～65歳未満。

一般就労への
移行の現状

- ① 特別支援学校から一般企業への就職が約29.3% 就労系障害福祉サービスの利用が約34.2%
② 就労系障害福祉サービスから一般企業への就職は、年々増加し、令和4年は約2.4万人が一般就労への移行を実現

大学・専修学校への進学等

障害福祉サービス

- ・就労移行支援 約3.6万人
 - ・就労継続支援A型 約8.4万人
 - ・就労継続支援B型 約32.9万人
- (令和5年3月)

就労系障害福祉サービス
から一般就労への移行

1,288人/ H15	1.0
2,460人/ H18	1.9 倍
3,293人/ H21	2.6 倍
4,403人/ H22	3.4 倍
5,675人/ H23	4.4 倍
7,717人/ H24	6.0 倍
10,001人/ H25	7.8 倍
10,910人/ H26	8.5 倍
11,928人/ H27	9.3 倍
12,517人/ H28	10.5倍
14,845人/ H29	11.5倍
19,963人/ H30	15.5倍
21,919人/ R1	17.0倍
18,599人/ R2	14.4倍
21,360人/ R3	16.6倍

24,426人/ R4 19.0倍

就職

企業等

雇用者数

約64.2万人

(令和5年6月1日)

※43.5人以上企業

※身体、知的、精神の
手帳所持者

ハローワークからの
紹介就職件数

102,537件

※A型:25,122件

(令和4年度)

就職 6,165人/年

12,968人/年

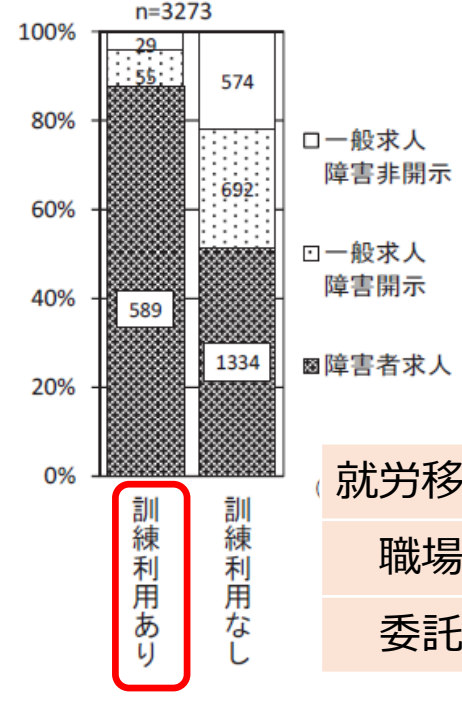
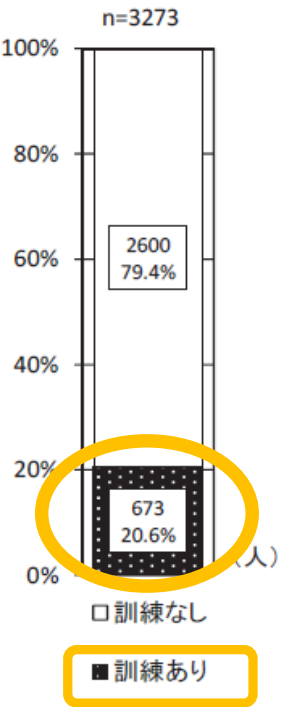
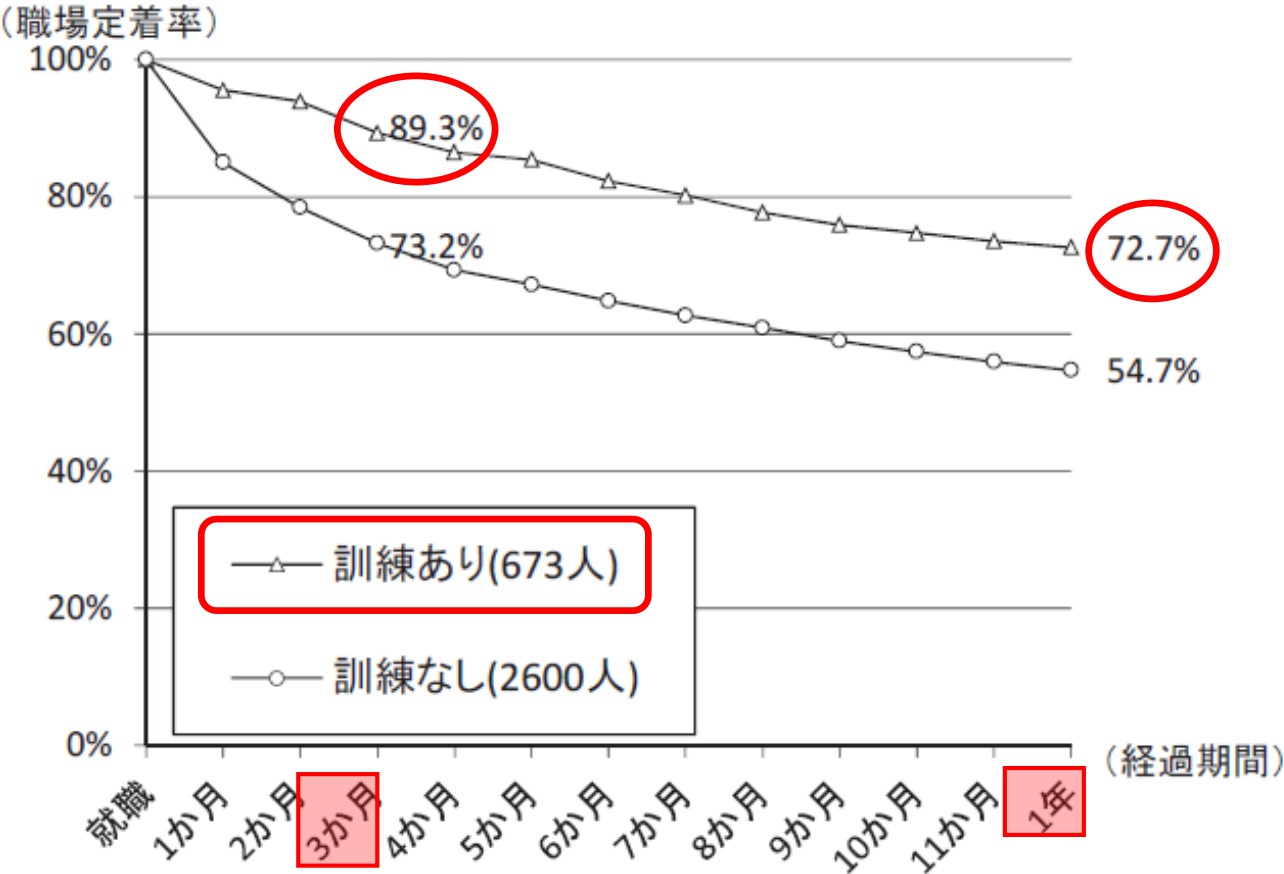
(うち就労系障害福祉サービス 7,199人)

特別支援学校

卒業生21,023人(令和5年3月卒)

712人/年

就労訓練の効果



【訓練利用の上位】

就労移行支援	249	37.0%
職場実習	223	33.1%
委託訓練	70	11.4%

注：障害別のログランク検定において有意差は、全ての障害でみられた。

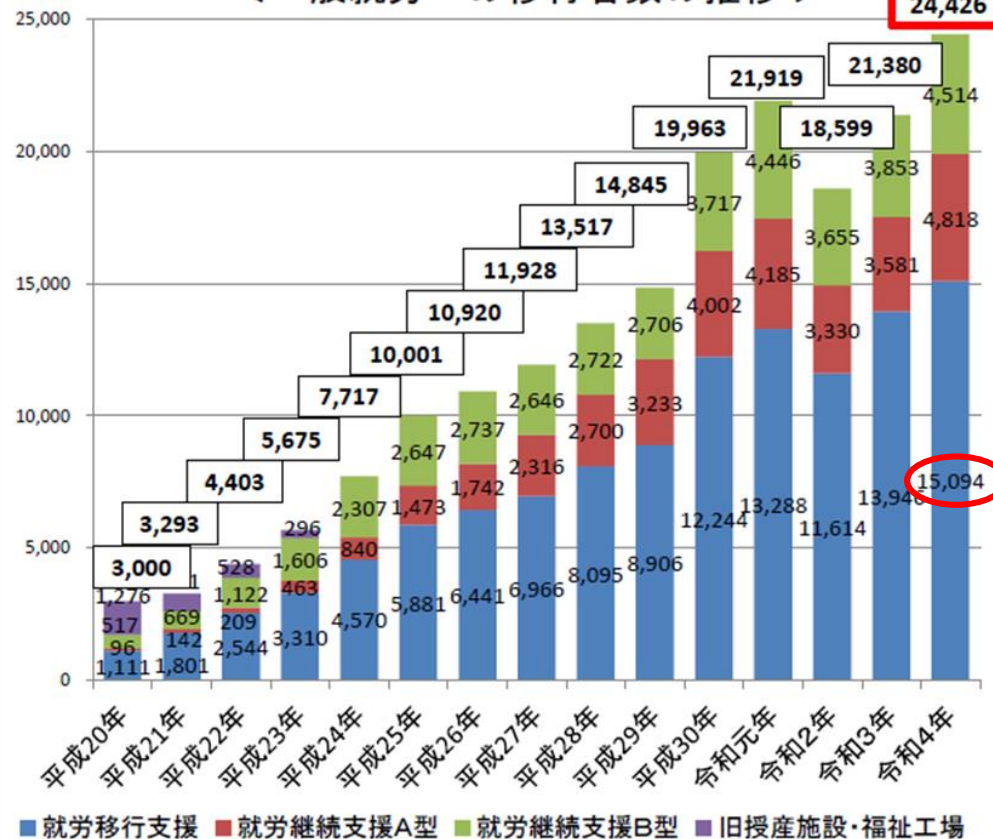
図表 1 - 4 - 1 就職前の訓練の利用別にみた職場定着率の推移と構成割合

【出典】 「障害者の就業状況等に関する調査研究」 高齢・障害・求職者雇用支援機構より作成

一般就労への移行者数・移行率の推移（事業種別）

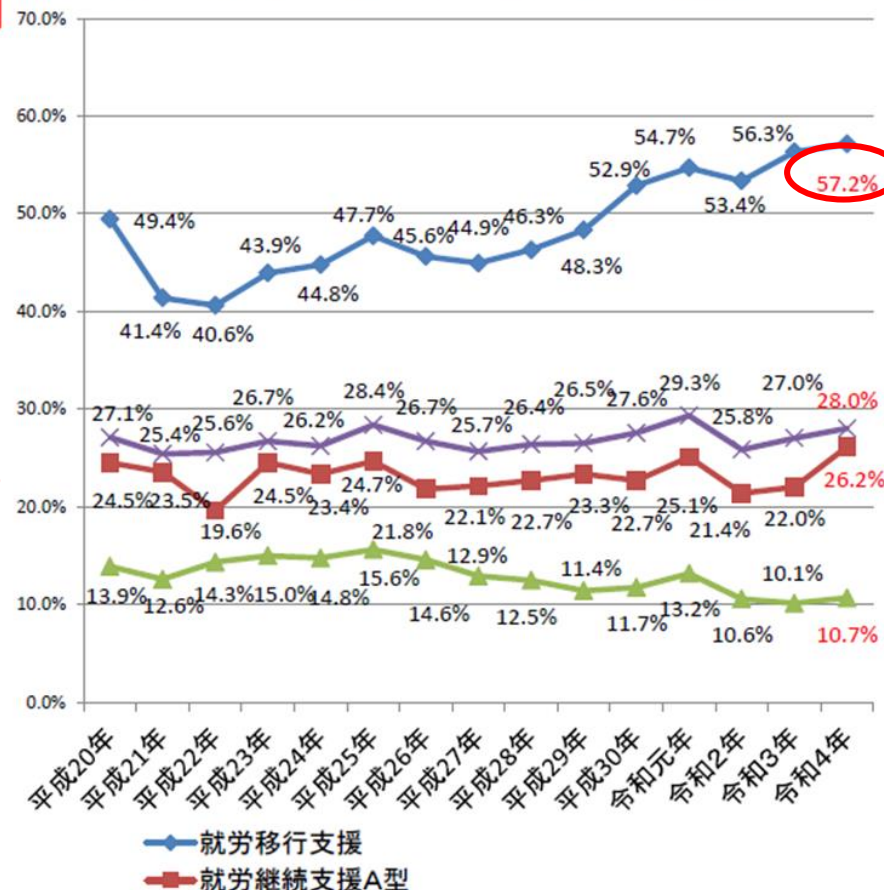
- 就労系障害福祉サービスから一般就労への移行者数は、令和4年においては前年比約14%増となり、約2.4万人であった。
- 令和4年におけるサービス利用終了者に占める一般就労への移行者の割合は、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型において前年より増加している。

＜一般就労への移行者数の推移＞



【出典】社会福祉施設等調査（各年の移行者数は、当該年の10月1日時点における前年1年間の実績）

＜サービス利用終了者に占める一般就労への移行者割合の推移＞



障害者総合支援法における就労移行支援事業

就労移行支援事業は、障害者総合支援法に定められた「障害福祉サービス」です。

	就労移行支援事業(規則第6条の9)
事業概要	通常の事業所に雇用されることが可能と見込まれる者に対して、①生産活動、職場体験等の活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練、②求職活動に関する支援、③その適性に応じた職場の開拓、④就職後における職場への定着のために必要な相談等の支援を行う。 (標準利用期間：2年) ※必要性が認められた場合に限り、最大1年間の更新可能
対象者	①企業等への就労を希望する者 ※平成30年4月から、65歳以上の者も要件を満たせば利用可能。
事業所数	2,941事業所（令和5年12月 国保連データ）
利用者数	36,667人（令和5年12月 国保連データ）

- 利用にあたっては、居住する市町村の障害福祉担当課に申請し、支給決定を受ける必要があります。
- 所得に応じて、利用料の自己負担分が生じる場合があります。

就労移行支援事業所の機能

- 1 ステップアップのための中間的環境
- 2 職業的適性等に関するアセスメント機能
- 3 障害のある人の自己理解を支援し、
就労意欲を高める機能
- 4 適した職場を見つけ調整するマッチング機能
- 5 就職直後から長期の継続支援を含む
フォローアップ機能

【出典】 「就労移行支援事業の充実強化に向けた先駆的事例研究 就労移行支援ガイドブック」

公益社団法人日本フィランソロピー協会

就労準備性ピラミッド

企業で身につけていくこと

1 職業適性

各企業で必要な知識・技能・適性

福祉事業所内で学ぶこと

2 基本的労働習慣

あいさつ、報告・連絡・相談、身だしなみ、規則の遵守、一定時間仕事に耐える体力

3 対人技能

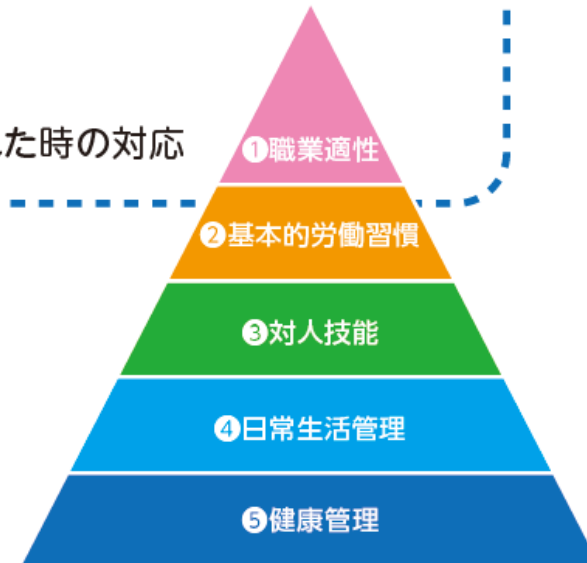
感情のコントロール、苦手な人へのあいさつ、注意された時の対応

4 日常生活管理

基本的な生活リズム、金銭管理、余暇の過ごし方、移動能力

5 健康管理

服薬管理、体調管理、栄養管理



【職業準備性ピラミッド】

就労支援のプロセス

相談

見学、相談、面談、
ニーズ確認等

準備訓練
アセスメント

施設内作業、座学、
施設外作業

求職活動
マッチング

面接同行、実習、
企業アセスメント等

職場適応支援

企業訪問、面談等

職場定着支援

ナチュラルサポート、
就労生活支援等

就労移行支援事業所

就職

他機関※

※他機関： 就労定着支援事業、市町村就労支援センター、
障害者就業・生活支援センター、地域障害者職業センター 等

就労移行支援事業プラスハートの支援

- ステップ1 安定して通うことに慣れる
- ステップ2 自分の強みに気づき、
自己理解を深める
- ステップ3 働くために必要なスキルを習得する
- ステップ4 リアルな作業訓練で「働く自分」を
イメージする
- ステップ5 充実した就活支援で内定を目指す



事業所のスケジュール

6月

2024年（令和6年）

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
	作業	(ヨガ) 作業	作業	(朝清掃) 作業	(朝学習) 作業	
	作業	就労講座 「身だしなみ」	作業	作業	作業	
9	10	11	12	13	14	15
	作業	(ヨガ) 作業	作業	(朝清掃) 作業	(朝学習) 作業	
	作業	IMR 「精神疾患 1」	作業	作業	作業	
16	17	18	19	20	21	22
	作業	(ヨガ) 作業	作業	(朝清掃) 作業	(朝学習) 作業	
	作業	SST 「報告する」	作業	作業	作業	
23	24	25	26	27	28	29
	作業	(ヨガ) 作業	作業	(朝清掃) IMR 「精神疾患 2」	(朝学習) 月間降返り	

1 日のスケジュール	
9:30	自主活動 <ヨガ・清掃・動画視聴>
10:00	朝礼 作業訓練 または 講座
12:00	昼休憩
13:00	昼礼 作業訓練 または 講座
15:30	日報記入／終業

就労支援のプログラム

施設内作業



検査・評価

●WAISⅢ



施設外作業



●幕張版ワーク
サンプル
(MWS)

座学のテーマ

講座

『OG体験発表』
『スーツの着こなし』
『仕事とお金』
『障害者雇用とは』

SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）
『言いにくいことを伝える』
『上手な断り方』

IMR（病気の自己管理とリカバリー）
『リカバリー目標』
『薬を効果的に使う』

講座



振り返り・自己理解

プラスハート振り返りシート

令和 年 月 / 第

今月の目標

※月間ふりかえりシートに掲げた目標を記入してください。

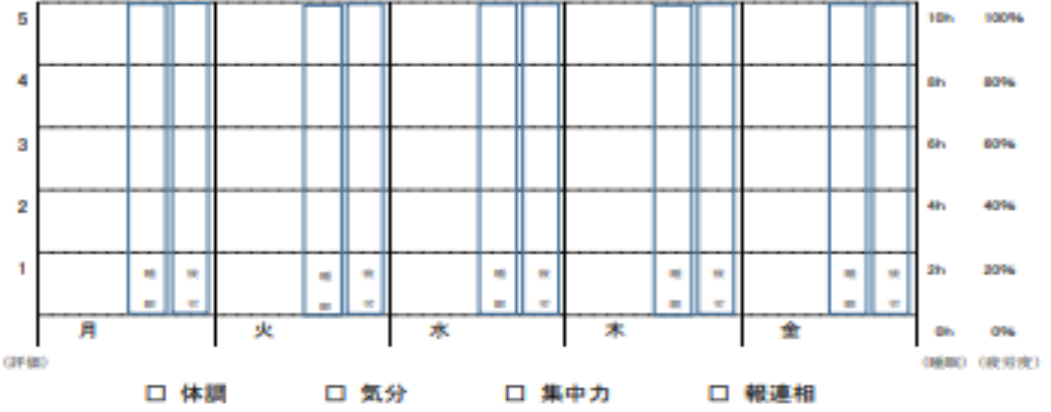
月 日 ()	スケジュール		自己評価		今日の振り返り・感想
	時間	作業・プログラム・面接等	体調	(5・4・3・2)	
	AM	自主学習	気分	(5・4・3・2)	
	(9:30~9:5	内容:	集中力	(5・4・3・2)	
	(: ~ :)		報連相	(5・4・3・2)	
	(: ~ :)		身だしなみ	(5・4・3・2)	
	PM		仕事の態度	(5・4・3・2)	
	(: ~ :)		実働時間	() 時間	
	(: ~ :)		睡眠時間	() 時間	
	(: ~ :)		疲労度	() %	

スケジュール		自己評価		今日の振り返り・感想
時間	作業・プログラム・面接等	体調	(5・4・3・2)	

<一週間のふりかえり>

記入日: 年 月 日 ()

●日々の自己評価を、下のグラフに記入してください。



●グラフをみて、気づいたことはありましたか？ (裏面や影響を受けたできごとなども具体的に！)

振り返りシート

<参加率>

①：実際の活動参加時間		②：参加予定時間		③：①÷②×100	
第1週	時間	(※月間の実際の活動時間の合計) 時間	(※月間の参加予定時間の合計) 時間		%
第2週	時間				
第3週	時間				
第4週	時間				
第5週	時間				

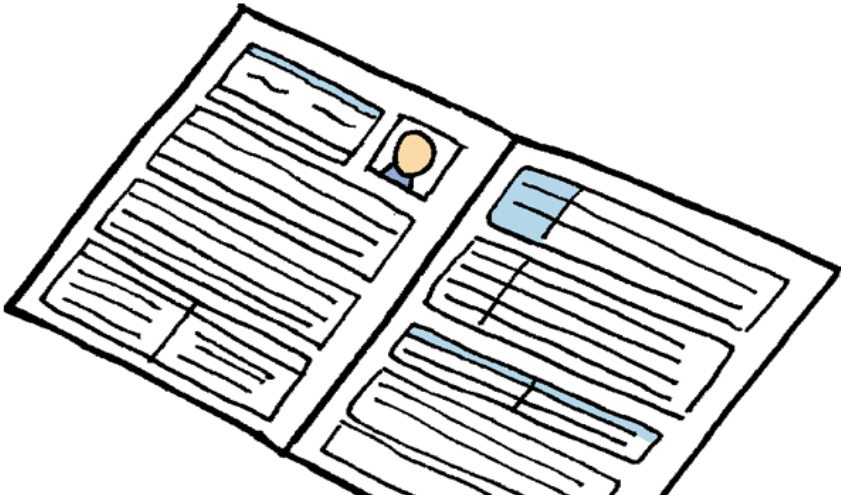
<月間ふりかえり>

※日報から自身の強みや傾向を整理しましょう

項目	今月がんばったこと・できていたこと		今後取り組むこと	優先順位
	できたこと	エピソード		
健康管理	(例)・服薬管理 ・体の健康 ・心の健康 (ストレス管理、対処) ・健康管理のための適切な相談	(例)・アラームセットすることで夜の服薬忘れがなくなった ・眠気が強かったので主治医に相談し、服薬調整を試みた。	(例)・頓服薬をどのタイミングで飲むと効果的か、試してみたい。	
日常生活管理	(例)・身だしなみ ・生活サイクル ・食生活 ・家事 (心地良い環境づくり)	(例)・爪が伸びたまま作業に入らないよう、毎日夜チェックした ・一日7時間の睡眠を維持できた	(例)・土日両方外出すると疲れてしまうと気付いたので、日曜は休むベースを作るようにしたい	
対人技能 仕事に必要な	(例)・あいさつ、言葉遣い ・報連相	(例)・仕上がり不安があったので報告して確認した	(例)・手が空いた時に自分から「今やることありますか」と周りの人に声をかけるようにしたい。	
モチベーション	(例)・目標への意識 ・作業の丁寧さ ・効率への工夫	(例)・数え間違いを防ぐために、二重チェックを徹底したらミスがなくなった。 ・やりやすい作業道具の配置を考えて、終礼時提案してみた。	(例)・疲れている時にミスが出やすいので、深呼吸して丁寧さを心がけて、ミスが減るか試してみたい。 ・講座を参考にして朝礼の間、姿勢を正して座る意識を持ってみる	

求職活動の支援

模擬面接



履歴書・
ナビゲーション
ブック作成

NEVR
【資料 10】

作成例②

プレナビゲーションブック
(実習用 自己紹介書)

御中 (氏名:)

実習の目標		・仕事で可能な体力、集中力を確認したい。 ・職場での挨拶、立ち振る舞いなど、職場のマナーを確認したい。 ・決められた作業方法を持続できるようにしたい。
セールス ポイント	作業面	○作業面 ・ルールや基準がはっきりしている作業は、慣れると抜けがなくなる。 ・ミスの傾向が理解できたら、そのための工夫ができる。 ・見直しポイントがはっきりしているとポイントに沿った見直しができる。 ・図や文章で視覚化したものの方が覚えやすい。
	対人面	○対人面 ・基本的なマナー、挨拶などはできる。 ・分からないところは質問できる。 ・助言をきいて取り入れることができる。



企業見学 実習



支援の事例

就職

就労相談・訓練
求職活動支援 等

就労移行支援事業所

体調の相談

医療機関

事業所
利用紹介

生活支援センター

就労支援の
相談・連携

就労支援センター

職業訓練

委託訓練

見学・面接
実習

企業

求人紹介
合同面接会

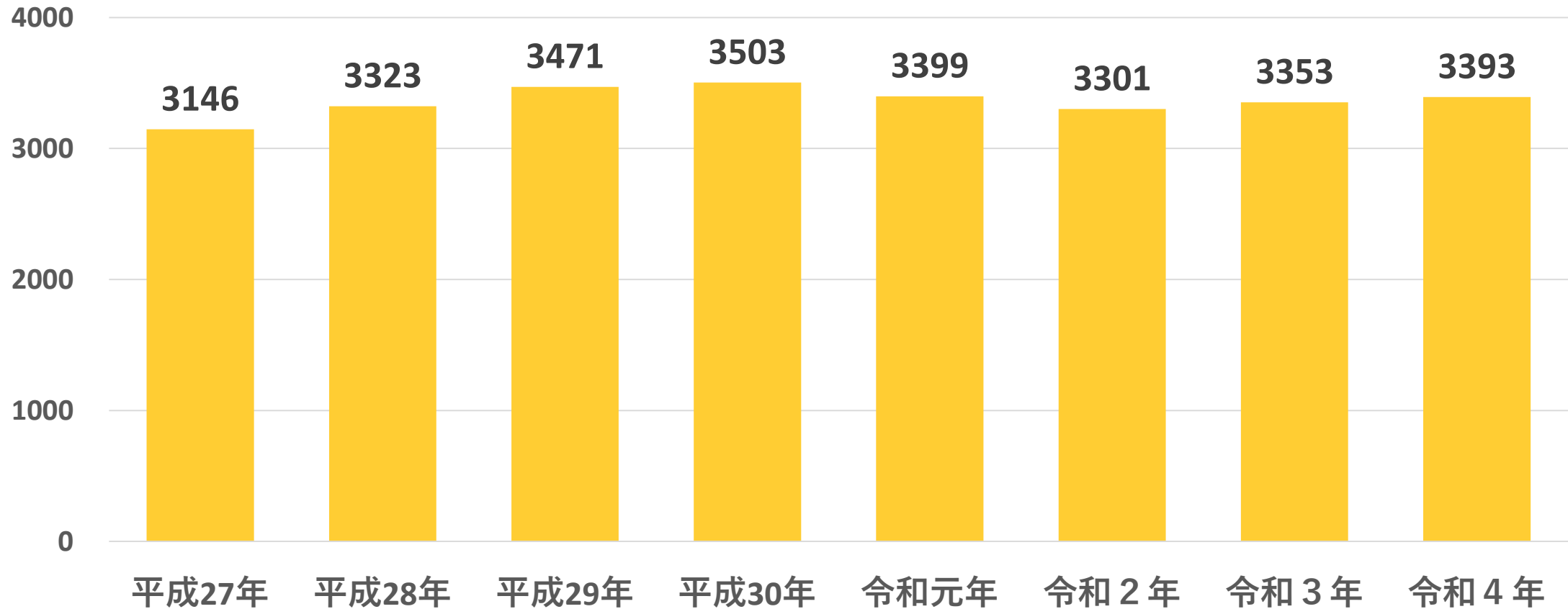
ハローワーク



事例のまとめ

- ステップ 1 週 3 日程度から始め、通所日数を増やして生活リズムを整える
- ステップ 2 作業・講座、ワークサンプル等から、自分の考え方や適性などを知る
- ステップ 3 委託訓練でパソコン業務の職業訓練に取り組む
- ステップ 4 職場体験により、働くときの配慮事項や苦手な事、強みを確かめる
- ステップ 5 希望する事務職で採用

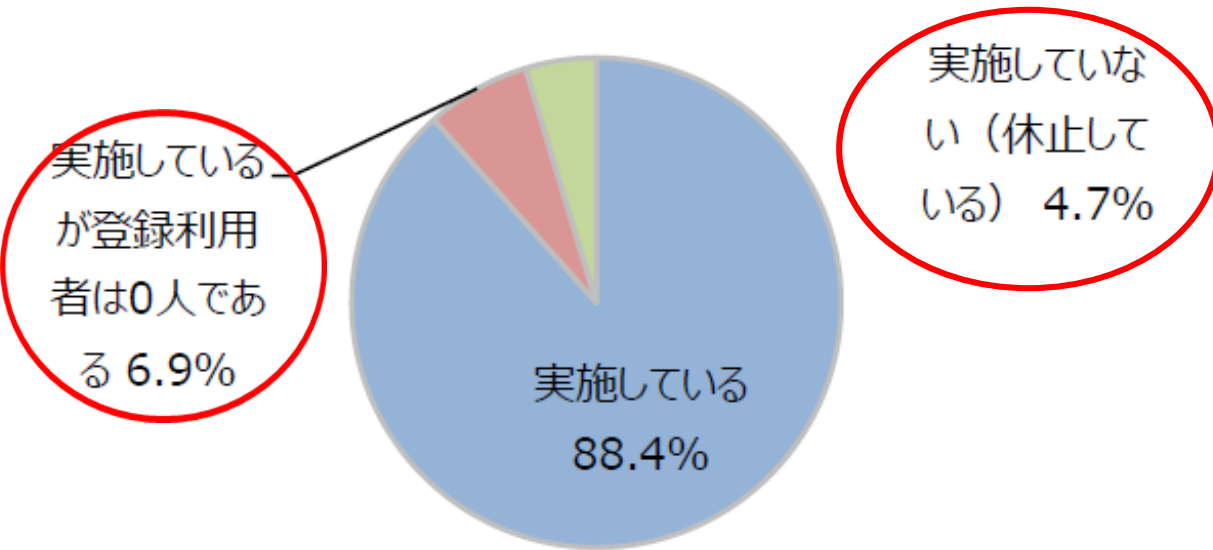
就労移行支援事業所数の推移



「令和4年社会福祉施設等調査」より作成

就労移行支援事業の実施状況

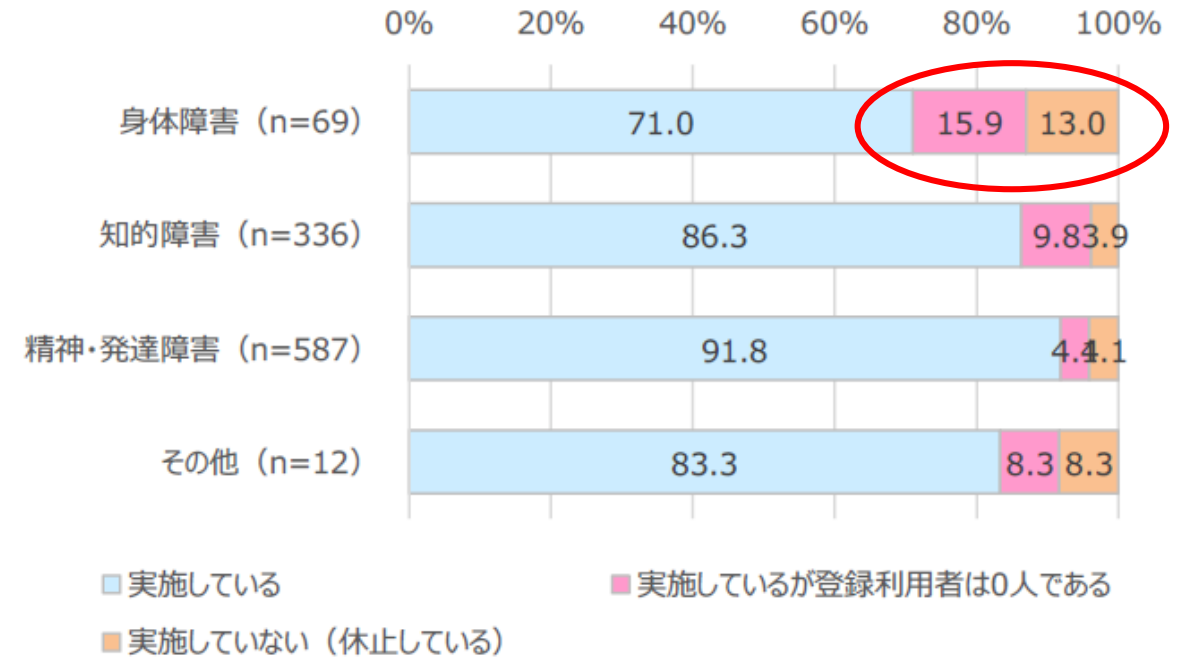
図表3-18 就労移行支援事業の実施状況 (n=1004)



【休止・廃止理由】

利用者が確保できない（62.2%）
 就労支援の実績を作ることが難しい（33.2%）
 採算がとれない（33.2%）
 職員配置が難しい（23.9%）

図表3-20 主な障害種別の就労移行支援事業実施状況 (n=1004)



【休止・廃止事業所の障害種別】

身体障害の 登録者数 0（15.9%）
 休止中（13.0%）が特に高い

就労支援の課題

- 地方の就労移行支援事業所数が減少し、就労機会が減少する可能性
- 精神障害・発達障害者を対象とした事業所は多く、選択肢が多いが、知的、身体障害者等は、事業所の選択肢が限られる可能性
- 利用者確保が順調な事業所とそうではない事業所と、採算性や人員配置等の問題からサービスの質に差が生じる可能性
- 現状の制度で実績を上げ、利用者を確保している事業所と、実績が作れず厳しい経営状況の中で新たな利用者確保も難しい事業所の二極化

等

【出典】「地域における就労移行支援及び就労定着支援の動向及び就労定着に係る支援の実態把握に関する調査研究 調査報告書」株式会社 F V P より抜粋

参考文献・引用文献

「障害者の就業状況等に関する調査研究」高齢・障害・求職者雇用支援機構（2017年4月）

「就労移行支援事業の充実強化に向けた先駆的事例研究 就労移行支援ガイドブック」
公益社団法人日本フィランソロピー協会（平成24年3月）

「地域における就労移行支援及び就労定着支援の動向及び就労定着に係る支援の実態把握に関する調査研究 調査報告書」株式会社FVP（令和5年3月）

「就労支援者のための支援力向上ガイド～「企業で働きたい」を実現するために～」岡山障害者就業・生活支援センター